

平成23年度
熊本市立熊本市民病院研修医募集要項

熊本市立熊本市民病院

〒862-8505 熊本市湖東1-1-60

TEL 096-365-1711

FAX 096-365-1712

病院の概要

沿革：熊本市立熊本市市民病院は、昭和21年に民生病院として発足以来、熊本市が経営する自治体病院として歩んでまいりました。この間、昭和54年、昭和59年、平成13年の増改築により、現在の病院が完成しました。診療科34科病床数562床（一般病床550床、感染症12床）を有する地域医療の中核的な総合病院として、年間の入院患者数約16.1万人、外来患者数約24.2万人を数え、一般医療のほか高度・特殊医療を担当しながら自治体病院としての役割を果たしています。

特に新生児医療については、新生児科58床（NICU15床を含む）を設け、全県下を網羅し、全診療科が24時間体制で活動しております。平成7年11月に集中治療部を設置しました。更に、平成12年4月に九州では初めての第1種感染症指定医療機関の指定を受けています。また、平成15年8月には、ユニセフ及びWHOが制度化した「赤ちゃんにやさしい病院」認定、12月には日本医療機能評価機構の「一般病院」認定、平成16年3月には、総合周産期母子医療センター、平成17年1月には熊本県下ではじめて地域がん診療拠点病院の指定を受けています。

理念：熊本市市民病院は、健康を願う市民を支援するため市民と協力し、仁愛と奉仕の心をこめて最善の医療を行います。

基本方針：1. 地域の基幹病院として、市民の健康と福祉の増進に貢献します。
2. 患者様の権利を尊重し、公正な医療の提供に努力します。
3. 地域の医療機関と連携を行い、最善の医療と患者様に信頼される医療を行います。
4. 患者様の立場を第一に考え、心をこめて看護ケアを行います。
5. 医療の進歩に沿って、病院施設や医療機器の整備と充実を図り、健全な病院経営に努めます。

医療病床数：562床（一般550床、感染症12床）

一日あたり平均外来患者数：約1013人

医師数：113名（常勤87名、レジデント18名 研修医8名）

特徴：1. 高度先進医療、がん治療、救急医療、難病治療
2. 感染症病床：感染症第1、2種病床を有する、エイズ治療拠点病院
3. 国際医学交流：（独国）ハイデルベルク、（米国）サンアントニオ市との医学交流
4. 臨床研修指定病院（昭和61年3月指定）
5. 熊本県総合周産期母子医療センター（平成16年3月指定：NICU15床、MFICU6床）
6. 地域がん診療連携拠点病院（平成17年1月指定）
7. 熊本県予防接種センター（平成14年8月指定）
8. 日本医療評価機構認定施設（平成15年12月認定、平成21年1月更新）
9. 赤ちゃんにやさしい病院（BFH）：（平成15年8月認定）

学会による認定施設：

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本消化器内視鏡学会、日本循環器学会、日本心臓ペースティング電気生理学学会、日本神経学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本小児科学会、日本外科学会、日本胸部外科学会、日本乳癌学会、日本消化器外科学会、日本小児外科学会、日本大腸肛門病学会、日本産科婦人科学会、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション医学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本皮膚科学会、日本眼科学会、日本脳神経外科学会、日本放射線学会、日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、日本病理学会、日本大腸癌研究会、日本医療薬学会

プログラム参加施設（予定）および概要：

医療法人ましき会 益城病院（精神病床210床）
医療法人佐藤会 弓削病院（精神病床160床）
山都町立蘇陽病院（一般病床40床、療養17床）
熊本市保健所

平成23年度卒後臨床研修プログラム

I.プログラムの名称

熊本市民病院臨床研修プログラム

II.プログラムの理念と到達目標と特徴

1 研修理念

臨床研修は、医師が、医師として的人格を涵養し、将来専門性とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診察能力を身に付けることのできるものでなければならない。

2 到達目標

1. 行動目標～医療人として必要な基本的な姿勢・態度
 2. 経験目標～
 - A 経験すべき診察法・検査・手技
 - B 経験すべき症状・病態・疾患
 - C 特定の医療現場の経験
- * 以上の到達目標のためのプログラムを作成

3 当院の特徴

1. 当院は臨床研修を行うための最適な規模の急性期型病院です。各科の協力が得られ、それぞれの専門家から適切なアドバイスがあり幅広い検討が可能です。（多くの救急症例をスタッフと共に経験し同時に高度な専門医療も研修できます。）
2. 救急外来・救急センター（平成21年度 救急車受入れ1日平均11件）においては数多くの救急の初期診断・治療を経験することができます。
3. 総合周産期母子医療（新生児集中治療・母体胎児集中医療）の研修ができます。
4. 研修当直制度あり、常時当直している内科系、外科系、NICU、産婦人科、及びICUの医師やその他の科の医師の指導の下に、プライマリー・ケアと救急患者の初期研修ができる。
5. 終了後のコースとして2年または3年間の専修医制度があり、将来の各科標榜医や認定専修医の受験資格を取得できるように、初期研修と関連させています。
6. 感染症第一種病床を有し、法定伝染病、感染力の強いウイルス疾患の診断と治療を研修することができます。
7. 毎月1～2回臨床病理検討会（以下CPCと略）では、徹底した症例分析を行います。

臨床研修プログラム

1. 基本必修研修科目について
原則として1年目内科（7ヶ月以上）・救急診療（3ヶ月以上）及び2年目地域医療（へき地医療）（1ヶ月以上）
2. 選択必修科目について
外科（2ヶ月以上）・麻酔科（1ヶ月以上）・小児科（1ヶ月以上）・産婦人科（1ヶ月以上）・精神科（1ヶ月以上）のうち2診療科を選択必修

原則として最初の12ヶ月に基本必修研修科目内科を研修する。内科の7ヶ月は『血液腫瘍内科・腎臓科・代謝内科』、『呼吸器科』、『神経内科』、『消化器科』、『循環器科』を各々1つのグループとして1～2ヶ月のローテートで研修する。

選択必修科目は1ヶ月以上（但し外科は2ヶ月以上）。5診療科のうち2診療科を選択する。精神科については、当院精神科指導医の指示のもとに、益城病院あるいは弓削病院で4週間研修する。2年目必修地域医療は山都町立蘇陽病院にて研修する。

2年目選択科は将来専門とする診療科を中心に関連の診療科での研修（1診療科1ヶ月以上）を10～11ヶ月間行う。選択科は1年目基本必修研修科目を研修中に研修医の希望により決定する。

研修プログラム（1年目）

	必修	必修	選択必修
研修科	内科	救急診療	○麻酔科 ◎外科 ○小児科 ○産婦人科 ○精神科（院外）
期間	7ヶ月	3ヶ月	◎：2ヶ月 ○：1ヶ月

研修プログラム（2年目）

	必修	選択必修
研修科	地域医療（院外）	将来専門とする診療科を中心に関連の診療科での研修
期間	1ヶ月	10～11ヶ月

（選択必修科目は5診療科のうち2診療科を選択する。）

研修スケジュールは各診療科によって異なりますが、アウトラインは午前8時より、指導医と担当患者の回診・ディスカッションを行い、本日の追加検査等治療方針を決めます。午前中は、超音波検査、内視鏡、透析、心カテ等の検査を行い、午後は午前中に出た検査結果を検討し治療の指示を出します。病棟で検査治療の手技（穿刺、MH挿入等）を行い、夕方は各科のカンファレンスに参加します。研修1年次は、月2回の当直、研修2年次は、月3回の救急外来診療（当直）があります。指導医の下、救急患者の初期診療にあたりますが、夜間は6名のスタッフが勤務しており、研修医だけに外来診療を任せることはありません。救急診療を1年間続けることで、幅広い経験を積むことができます。

毎週火曜日は、研修医向けに初期診療実践セミナーがあります。研修医が中心となって、セミナーの内容を決めて専門医に依頼します。月に1回のCPCでは剖検例の臨床検査・X線CT写真を含めた詳細な検討を行います。

研修診療科の紹介

必修科

- 内科（呼吸器科、循環器科、消化器科、感染症科、腎臓科、代謝内科、血液・腫瘍内科、神経内科、）

担当医として指導医とともに各分野の患者を受け持ちます（担当患者は常に5～10名。内科系の主な診療科を2ヶ月単位でローテーションします）。剖検（10体前後/年）、CPCに参加。内科全体カンファレンス、気管支鏡、肺機能検査、人工呼吸管理、呼吸器カンファレンス、心エコー、経食道心エコー、心カテ、冠動脈造影、PTCA、ステント留置、心臓電気生理学的検査、ペースメーカー及びICD植え込み、頸部血管エコー、脳血管造影、消化管透視、消化器内視鏡、腹部エコー、肝生検、法定伝染病、感染力の強いウイルス性疾患の診断と治療。易感染症疾患患者の感染防止と原疾患の治療、糖尿病、内分泌、血液疾患の研修。腎臓科は血液透析、腎生検を研修。神経内科は神経疾患や多様な急性期脳卒中症例の紹介があり、日本各地より専修医が研修に訪れています。

- 救急診療部

麻酔科出身の救急専門医師がマンツーマンで指導を行います。年間4,005件(平成21年度年実績)の救急車搬入を受け入れています。常時救急体制が整っており最も研修できる部門です。急性上気道炎などのcommon diseaseから、集中治療を要する重症患者、心肺停止患者まで幅広く対応できるようになることを目標に研修を行います。

- 地域医療

2年目の1ヶ月は蘇陽病院でへき地医療研修を行います。

- 外科 呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科

外科診断学、術前・術後管理、基本手術手技、切除標本の整理などの研修を行います。年間約1,100例の手術があり、緊急手術も多く、幅広い外科研修が可能です。カンファレンスは週2回行っています。

- 麻酔科

全身状態を把握するために術前の検査結果の見方から指導します。手技としては血管確保をはじめ気道確保のためのバックアンドマスク換気、気管挿管および人工呼吸器の使用法の研修を行います。また、脊髄麻酔のための穿刺法も指導します。当院は年間4,000例以上の手術症例数、3,300例以上の麻酔科管理症例数を誇っています。周産期症例も多く、新生児麻酔症例は50例以上あります。その他幅広い手術が行われているため、麻酔法も多くの種類が経験できます。手術室以外では院内BLS・ACLS講習会で研修できます。緩和医療に興味がある方は院内緩和ケアチームへの参加も可能です。

- 小児科グループ（小児科・小児循環器科・新生児科）

小児科・小児循環器科・新生児科の三つのグループから成り、日本小児科学会専門医研修支援施設、日本小児循環器学会専門医研修施設および日本周産期・新生児医学会専門医基幹研修施設に指定され、紹介患者を中心に、県内の二次、三次の新生児・小児医療を担当しています。もちろん、産科の新生児のケアから予防接種など、予防医学・保険活動も行っています。

- 産婦人科

一般産婦人科の見方を広く研修してもらい、子宮癌、卵巣癌の診断と取り扱い規約による整理、多くの子宮筋腫症例の取り扱い方を学ぶことができます。緊急手術（帝王切開、急性腹痛）も多くあり、緊急手術の研修も行います。ユニセフから赤ちゃんにやさしい病院の認定を受けています。総合周産期母子医療センターの指定を受けており、いろいろな症例の周産期医学を新生児科との共同で研修することができます。分娩数は約500例、手術数は約700例で帝王切開術は約250例、悪性腫瘍手術は約90例です。

- 精神科
当院より車で30分以内の協力病院（益城病院、弓削病院）へ赴任、1ヶ月間指導医と一諸に精神疾患患者を担当医として受け持ちます。協力病院での当直研修もあります。

選択科

- 整形外科
荷重関節外科を主にしており、脊髄外科症例も多く、骨折、外傷等の救急症例も多く受け入れています。リハビリテーションやリウマチに対する研修が可能です。
7名の整形外科専門医の基本指導が受けられ、週3回の検討会があります。
- 心臓外科
年間200例の先天性心疾患、後天性心疾患及び大血管疾患の外科治療を研修できます。
- 脳神経外科
成人の腫瘍、脳血管障害、外傷機能性神経疾患（顔面けいれん、三叉神経）のほか、小児の水頭症や脊椎破裂、髄膜瘤、頸動脈内膜血栓除去などの手術をおこなっています。
- 眼科
症例数は年間外来16,000名、手術件数500件であり、未熟児網膜症の管理、小児科も研修することができます。
- 耳鼻いんこう科 +
年間300例の手術があり、特に頭頸部外科領域の診断に必要な技術と態度を養う研修が可能です。指導医と共に年間100例以上の執刀医となることができます。
- 皮膚科
アレルギー性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）や皮膚腫瘍など皮膚科一般を扱って外来患者数年間約25,000名（入院患者数年間約3,800名）が来院されます。皮膚科一般の研修のほか、特にアレルギー性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）、膠原病性・血管炎群、水疱症などの自己免疫疾患、デルマドローム（内臓疾患の皮膚徴候）、皮膚腫瘍の診断と治療、植皮術などの皮膚外科などが研修できます。
- 泌尿器科
良悪性広い範囲の症例があり、泌尿器科医として必要な基礎知識や手技の研修習得が可能です。年間150例の手術、160例のESWLを行っており、腹腔鏡下手術（腎摘など）も積極的に行なっています。
- 放射線科
16列高速CT、MRI、血管造影、超音波検査など、診断機能中枢で救急診断が即座にできます。また、血管塞栓術や血管拡張術などのIVR治療もできて、放射線治療も充実し、癌治療に治療成績をのばしています。
- 中央検査部門
臨床検査の基礎的な知識と技術を、研修開始の当初2日間で実習します。採血法、輸血、細菌、生理および一般検査について実習します。
- 臨床病理室
年間4,500件の病理組織診断、10,000件の細胞診断、350件の術中迅速診断を行い、臨床各科に対応しています。部検症例の臨床病理カンファレンス（CPC）をはじめ、消化器、乳腺症例等の術後カンファレンスを行い、医療の質向上に寄与しています。

病院見学の案内

病院見学会を行います。原則として、6月から8月までの毎週月・火・木曜日に見学者を受け入れます。その他の曜日は問い合わせてください。午前中は研修内容の説明と病院案内、午後は病棟または救急センターでの見学実習を行います。総務課総務係まで、所定用紙に必要事項を記入してFAX、Eメールにて見学実習を申し込んで下さい。また、4～5日の複数科見学学習も受け入れます。

申し込み連絡先

熊本市民病院 総務課総務係

〒862-8505 熊本市湖東 1-1-60

E-mail byouinsoumu@city.kumamoto.lg.jp

電 話 096-365-1711 内線 3654

F A X 096-365-1712

熊本市民病院臨床研修説明会のご案内（当院スーパーローテート研修医との懇談会）

期日：平成22年7月17日（土） 16時～18時

場所：熊本市民病院新館4階会議室

申込み方法：総務課総務係（電話、FAX、又はEメールで申し込み下さい。）

E-mail byouinsoumu@city.kumamoto.lg.jp

電 話 096-365-1711 内線 3654

F A X 096-365-1712

研修終了後の進路

研修終了後どのような専門性に進むかは、責任をもって2年次に定期的に進路相談を行います。当院の後期研修（レジデント）の道もあります。また、各大学への入局についても幅広く相談を受けます。

臨床研修に関する相談、問い合わせは

首席診療部長（研修担当） 外村洋一 までご連絡下さい。

E-Mail kensyudr@cityhosp-kumamoto.jp

電 話 096-365-1711（代表）

F A X 096-365-1712

出願手続き

1. 募集人数 8名（熊本県の募集定員に準拠するため変動があります。）
2. 応募資格 次のいずれにも該当するもの
 - （1）平成23年実施予定の医師国家試験を受験する者
 - （2）全国マッチング・プログラムに参加する者
3. 応募書類
 - ・願 書 1通（別紙様式）
 - ・履歴書 1通（別紙様式）
 - ・卒業（見込み）証明書 1通
 - ・返信用封筒

（長3型封筒に出願者本人の宛名を記入し、80円分の切手を貼ったもの）
4. 応募方法
 - （1）上記応募書類を一括して応募期間内に下記提出先に提出して下さい。
郵送する場合は、必ず「書留」とし、封筒表面に「研修医応募書類在中」と朱書して下さい。
 - （2）応募締め切り：平成22年8月9日（月）（必着）
 - （3）応募書類提出先
熊本市立熊本市市民病院 総務課 総務係 宛
〒862-8505 熊本市湖東1-1-60 電話096-365-1711（代表）

※ 願書、履歴書は熊本市市民病院ホームページからダウンロードするか、総務課 総務係まで申し込んでください。

5. 選考方法 書類審査、小論文試験及び面接試験
6. 選考日 小論文試験及び面接試験を下記日程で行います。
平成22年8月12日（木） 午後13時30分より
（予備日） 平成22年8月19日（木） 同上
なお、試験の詳細は、後日応募者に通知する予定です。
7. 処 遇
 - （1）身分：非常勤職員の嘱託職員（研修医）月額¥300,000
（宿直手当1回2万円は、別途支給）
 - （2）勤務時間：月～金8：30～17：00（休憩時間12：00～13：00）
 - （3）宿舍の有無：有（独身宿舍のみ）
 - （4）社会保険の有無
健康保険：有 厚生年金：有 公務災害補償：有 雇用保険：有
 - （5）健康管理：定期的な職員健康診断を実施する。
 - （6）医師賠償責任保険の適用の有無：任意加入
 - （7）研究会への参加の可否：研修の妨げにならない範囲で可、国内学会発表時旅費支給

<お問い合わせ先>熊本市立熊本市市民病院

事務局 総務課 総務係 （担当者 酒井）
〒862-8505 熊本市湖東1-1-60
電 話 096-365-1711（代表）内線3654
FAX 096-365-1712
E-Mail byouinsoumu@city.kumamoto.lg.jp

受験番号	※
------	---

平成23年度熊本市立熊本市民病院

研修医選考試験願書

熊本市立熊本市民病院長 殿

出 願 者	ふりがな		性 別
	氏 名		男 ・ 女
	生年月日	昭和 年 月 日生(歳)	
	現住所	(〒 -) (Tel - -)	
	E-Mail		
最終学歴		大学 昭和・平成 年 月 卒業(見込)	

※欄は、記入しないで下さい。

選考日は、 8月12日(木) 8月19日(木) を希望します。

(8月12日は、どうしても受験できない人のみ8月19日可)

○で囲んでください

平成23年度熊本市立熊本市民病院研修医選考試験を受験いたしたく、関係書類を添付の上、申し込みます。

平成 年 月 日

氏名 _____ 印

受験番号	※
------	---

履 歴 書

ふりがな				写 真 写真については、 3ヶ月以内に撮影 したものを使用。 年 月撮影
氏 名				
生年月日	昭和	年	月 日生(歳)	
本籍地	都道府県名()	性 別	男 ・ 女	
ふりがな				
現住所	(〒 -)			(TEL - -)
E-Mail				
ふりがな				
その他の 連絡先	(〒 -)			(TEL - -)

(略 歴)

年	月	学校・学部・学科・資格

※欄は、記入しないで下さい。

病院見学、訪問、説明会 申込書

平成 年 月 日

氏名		年齢	歳
住所	〒		
電話番号			
連絡先電話番号			
E-Mail			
大学名			
卒業年月(予定)	年度卒業(予定)		
訪問希望日	第1希望日	年 月 日	曜日
	第2希望日	年 月 日	曜日
		訪問期間	日間
希望診療科			

※ 申込書は1週間前までにE-Mail又はFAXにてお申込下さい。

※ 訪問日は、申込み受付後、当院より追って連絡致します。

FAX 096-365-1712

E-Mail byouinsoumu@city.kumamoto.lg.jp

熊本市立熊本市民病院